

よくあるご質問とその回答

平成 24 年 2 月 13 日

日本糖尿病学会

●一般の方・患者の皆様へ

Q1. HbA1c とはなんですか。

A1. HbA1c (ヘモグロビンエーワンシー) は糖尿病に関連する検査の一つで、採血から過去約 1-2 か月間の血糖値の平均を反映する検査値です。具体的な特徴として、

- ・食事の影響を受けませんので、空腹でなくても検査ができます。
- ・ある 1 日だけの暴飲暴食や体調不良でその日のみ血糖値が上がったとしても、HbA1c は高い値にはなりません。
- ・ふだん血糖値の高い人が採血前の 1-2 日だけ食事を注意して血糖値を下げても、HbA1c は低い値になりません。

HbA1c の値が高い人は過去 1-2 か月間にわたって血糖値の高い状態が続いていたものと考えられますので、HbA1c は糖尿病の特徴である「慢性的な高血糖」を数値で表してくれることになり、様々な研究で HbA1c の値と多くの合併症との関係がわかっていますので、糖尿病の診断や治療にとって大変重要で有用な検査となります。まだ測ったことの無い方は、健康診断などで是非一度測ってみてください。

Q2. JDS 値とか NGSP 値というのはなんですか、またなにが違うのですか。

A2. おおざっぱに言えば、HbA1c を測るときの測定条件設定のわずかな違いと考えてください。JDS 値は、日本で決められた条件に従って測った値、NGSP 値は主に米国で決められた条件に従って測った値です。

異なる日に測った HbA1c や複数の病院で測った HbA1c を比較できるようにするためには、HbA1c の測定条件を等しくしておくことが必要になります (JDS 値同士、NGSP 値同士は直接比較できますが、JDS 値と NGSP 値とを比較するには、測定条件が違いますので値をどちらかに換算しなくてはなりません)。

今回の場合のポイントは、我が国以外のほとんどの国々で NGSP 値が使われ事実上の世界標準となっていること、日本の JDS 値は NGSP 値に比較して約 0.4%低い値となること、です。

Q3. なぜ今このような変更を行う必要があるのですか。

A3. 世界中にいらっしゃる糖尿病の患者さんは、その数が近年非常に増加しています。それに伴い、糖尿病の診断・治療はもとより様々な調査・研究や新薬の開発が世界で行われ、その情報がインターネット等を通じて世界に流通し互いに比較されるようになってきました。これは患者さん個人や患者さんの団体から発せられる情報についても同様です。このような状況の中で、我が国だけが約 0.4%低い HbA1c の値

を用いていますと、相互に誤った印象を与えてしまったり、ひいては我が国のデータ自体に対して不信や無視が生じたり、さらには海外のデータを誤って判断してしまう可能性も生じてきます。そこで平成 22 年（2010 年）7 月 1 日から論文や発表に用いる HbA1c には JDS 値に 0.4%加えた値を使い始めましたが、一方で日常的な診療の中での HbA1c の変更日程は、様々な事情から時間をかけた協議の上で決める必要がありました。今回その協議がまとまりましたので、2012 年 4 月 1 日から日常的な診療でも事実上世界標準となっている NGSP 値を使い始めることとなりました。

Q4. 糖尿病の治療をしています。今回の変更はどのようなメリットがあるのですか。

A4. NGSP 値を用いることにより、国際的な研究・治験が支障なく行われ、新薬や新しい治療法の我が国への導入が円滑に進められるようになります。また、患者さんが海外への長期出張や留学などに際して現地で治療を継続する場合も、過去のデータの解釈に誤解が生じないので問題なく治療を続けることができます。

Q5. HbA1c の検査代が上がってお金がかかるようになるのですか。

A5. 検査費用は変わりません。

Q6. HbA1c の値が約 0.4%高くなるそうですが、糖尿病と診断されやすくなるのでしょうか。

A6. 診断の基準値も 0.4%高くなりますので、糖尿病と診断されやすくなることはありませんし、糖尿病の患者さんが増えることもありません。

Q7. HbA1c の数値を見るとときどんなことに注意すればよいのですか。

A7. 一番大切なことは、ご覧になっている HbA1c の値が JDS 値なのか NGSP 値なのか、という点です。病院などでは、平成 24 年 3 月 31 日までに報告された結果は JDS 値、4 月 1 日以降の結果は NGSP 値が主に使われます。ただし、原則的に NGSP 値と JDS 値が併記される予定ですが、施設によっては状況が異なる可能性がありますので、値が JDS 値か NGSP 値かについて判断に迷った時は、必ずその検査を受けた病院や健診機関に確認するようにしてください。また、特定健診や事業主健診では、平成 24 年度中は、これまで通り JDS 値が使われますので、注意が必要です。また、HbA1c の値を比較する場合、JDS 値同士、NGSP 値同士であればそのまま比較ができます。

一方、JDS 値で報告された過去の検査データや特定健診のデータを、病院などでもらう NGSP 値の検査データと比較する場合には、

- ・糖尿病の治療を受けている方  
必ず医師と相談の上比較しましょう。

- ・糖尿病予備軍あるいは境界型といわれている方

通院なさっている方は医師に相談しましょう。通院なさっておらずお薬も使っていない方は、JDS 値に 0.4% を加えることによって、NGSP 値に換算することで比較できますが、この機会にぜひ一度医療機関を受診して相談なさってみてください。

- ・正常範囲と思われる方

JDS 値に 0.4% を加えることによって、NGSP 値に換算することで比較できます。ただし、このところ HbA1c の値が次第に高くなってきているなど、懸念・不安を御感じでしたら一度受診して相談なさってはいかがでしょうか。

Q8. 糖尿病の治療をして、受診のたびに HbA1c を測っています。4 月 1 日以降、約 0.4% 値が高くなるとのことですが、3 月 31 日以前の値と比較するにはどうすればよいのでしょうか。

A8. 糖尿病の患者さんは、まずかかっている医師に相談されるのが一番安全です。JDS 値に 0.4% を加えることによって、NGSP 値に換算することで比較できますが、比較の仕方を間違えますと、ご自身の糖尿病の状態を実際以上に悪く、あるいは逆に実際以上に良く判断することになり、自己判断でお薬の量や飲み方を変えたりすると大変危険なことになります。必ず医師とご相談の上、ご自身の糖尿病の状態を正しく理解するようにしてください。

Q9. 健診会場でポスターを見ました。なにか注意することがあるのですか。

A9. 平成 24 年 4 月 1 日以降、日本の日常的な診療や健診（特定健診関係を除く）において糖尿病の重要な検査項目となっている HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）の値が国際的に標準的な表記（NGSP 値）に変更されることになりました。これまで糖尿病といわれたことの無い方も、この機会に一度 HbA1c を測ってみてはいかがでしょうか。特に 40 歳以上の方は、ぜひお測りになることをお勧めいたします。糖尿病の方は、おかかりの医師からお話を聞いて理解していただくのがよいでしょう。患者さん向けのリーフレットも今後配布を予定していますので、ぜひご覧になってください。

Q10. 特定健診の HbA1c は JDS 値で結果通知されるとのことですが、今後ずっとそうなのですか。

A10. 特定健診・特定保健指導では、全国の大量の健診データが電子化されてソフトウェアで処理されるため、JDS 値から NGSP 値への変更の影響が非常に大きいことに注意が必要でした。このため、今回平成 24 年 4 月 1 日以降、日常的な診療では NGSP 値を用いるようになりましたが、特定健診・特定保健指導では 4 月 1 日以降も、少

なくとも平成25年3月31日までJDS値を用いて結果を報告することになりました。平成25年4月1日以降の取り扱いについては関係者間で協議中ですので、その結果をお待ちいただきたいと思います。

Q11. 3月31日に検査したら結果はJDS値とNGSP値のどちらで出るのですか。

A11. 当日に検査結果が出る場合は、JDS値になります、翌日以降に検査結果が出る場合は、NGSP値で結果が報告され、JDS値が併記されることになります（ただし、施設により状況が異なる可能性がありますので、検査結果がNGSP値かJDS値かは、検査をした病院や健診機関に必ず確認してください）。

Q12. 住んでいるところによって今回の変更の違いがあるのですか。

A12. 今回の変更は全国共通のもので、地域によって扱いの違いはありませんが、各施設ごとの事情によって変更の時期に相違が出る可能性があります。したがって、4月1日以降に受けた検査のHbA1c値がNGSP値なのかJDS値なのか少しでも迷いを感じる時は、必ず検査を受けた施設でいずれの値であるのか確認するようにしてください。

Q13. 知り合いから今回のHbA1c標準化の話を耳にしました。詳しく知るためにはどうしたらよいでしょうか。

A13. 日本糖尿病学会では、患者さん向けのリーフレットを準備しており、全国の医療機関に配布を予定しております。受診されている病院があればそちらで入手されてはいかがでしょうか。

また、日本糖尿病学会ホームページ、

URL : <http://www.jds.or.jp/>

にも各種資料・Q&Aを掲載してゆきますので、こちらをご参照いただければ幸いです。

